

# 令和5年度 重点研究の総合評価（中間・事後）

## ■重点研究 中間評価（継続課題）

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		研究の進捗	目標達成見込	活用の可能性	評価	評価	意見
<b>リモートセンシングと圃場情報を活用した干湿害多発農地の診断手法の開発</b>							
○中央農業試験場、 十勝農業試験場、 北見農業試験場 (R3-R6)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の計画に遅れが生じていることから、研究目標が達成できるよう適確に試験を遂行すること。</li> <li>土壌診断的中率について目標を合理的に定め、調査点数を増やす等、結果の信頼性を高め、向上を図ること。</li> </ul>	B	評価委員会の意見を踏まえて引き続き課題に取り組むこと。
<b>道産かぼちゃ3トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発</b>							
○花・野菜技術センター、 中央農業試験場、 十勝農業試験場 (R4-R6)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究項目ごとの具体的な目標と項目間の関連性を明らかにして、試験に取り組むこと。</li> <li>得られる成果が着実に活用されるよう、省力栽培法と長期安定出荷技術にかかる費用対効果について検討すること。</li> </ul>	B	評価委員会の意見を踏まえて引き続き課題に取り組むこと。 肥料や資材費の高騰など環境の変化を考慮し、省力栽培法と長期安定出荷技術にかかる経済性について検討すること。
<b>持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化</b>							
○上川農業試験場、 道南農業試験場、 花・野菜技術センター、 北方建築総合研究所 工業試験場 (R4-R6)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も燃料価格の高騰が継続すると予想されることから、目標である燃料消費量3割減の妥当性、導入・運用にかかる費用対効果を適確に検討すること。</li> </ul>	B	評価委員会の意見を踏まえて引き続き課題に取り組むこと。
<b>道産ガゴメの生産性を向上する促成養殖生産システムの開発</b>							
○函館水産試験場、 中央水産試験場 (R3-R6)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>光源の選択など一部の計画に遅れが生じていることから、研究目標が達成できるよう適確に試験を遂行すること。</li> <li>より大きな波及効果となるように、関係機関との連携・情報交換を密にし、試験を進めること。</li> </ul>	B	評価委員会の意見を踏まえて引き続き課題に取り組むこと。

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		研究の進捗	目標達成見込	活用の可能性	評価	評価	意見
<b>秋から冬に行うキタムラサキウニの養殖技術開発</b>							
○栽培水産試験場、 工業試験場 (R4-R6)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の計画に遅れが生じていることから、研究目標が達成できるよう適確に試験を遂行すること。</li> <li>得られる成果が確実に事業化につながるよう、費用対効果の検討や関係者の合意形成を図るとともに、経済波及効果についても多角的に検討すること。</li> </ul>	B	評価委員会の意見を踏まえて引き続き課題に取り組むこと。
<b>カラマツ類及びトドマツの種苗配置適正化と優良品種導入による炭素吸収量増加効果の評価</b>							
○林業試験場 (R4-R6)	b	b	a	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>林分成長モデルの構築においては、さらなる精度・信頼性の向上と、不確実性を加味した提示も検討すること。</li> </ul>	A	評価委員会の意見を踏まえて引き続き課題に取り組むこと。
<b>農産物を対象とした目視品質検査の自動化技術の開発・実用化</b>							
○工業試験場 (R4-R6)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実装に向けて、費用対効果と成果普及のシナリオを明確にした上で、試験を進めること。</li> <li>自動品質検査手法および生産管理情報の自動モニタリング装置の開発において、当初目標への達成度を適切に評価できる試験内容とすること。</li> </ul>	B	評価委員会の意見を踏まえて引き続き課題に取り組むこと。

■重点研究 事後評価（R4年度終了）

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		内容 の妥 当性	目標 の達 成度	活用 の可 能性	評価	評価	意見
<b>パイプハウスにおける環境および養分制御による省力多収技術の開発</b>							
○道南農業試験場、 花・野菜技術センター、 上川農業試験場、 北方建築総合研究所 (R2-R4)	b	a	b	B	環境制御と養分制御の統合 化を進め、導入効果とコストの 検証や他品種への適用など、 生産現場に応じた技術の最適 化を図りながら普及に努めるこ と。	B	評価委員会の意見を踏まえ て成果の普及を進めること。
<b>多段式育成手法を活用した道産エゾハフウウニの効率的な種苗生産体系の開発</b>							
○函館水産試験場 (R2-R4)	b	b	a	A	ウニ人工種苗の効率的な増 産に寄与する種苗生産システ ムを開発し、実装を進めた。新 規導入に際しての事業モデル (初期投資の回収や費用対 効果)の構築を進め、成果が 広く普及するよう努めること。	A	評価委員会の意見を踏まえ て成果の普及を進めること。
<b>クリーンラーチ挿し木苗の得苗率を向上させる育苗管理技術の開発</b>							
○林業試験場、 北方建築総合研究所 (R1-R4)	b	a	b	B	採穂台木の促成栽培技術、 挿し木ハウスの改良および農業 用セルトレイを使用した挿し木 育苗の全体最適化を図るとも に、導入コストを明確に示し普 及に努めること。	B	採穂台木の促成栽培技術、 挿し木ハウスの改良および農業 用セルトレイを使用した育成そ れぞれの、得苗率への貢献度や 導入コストを明確に示し普及に 努めること。
<b>木質粗飼料を用いた乾乳牛の過肥対策とその実証</b>							
○林産試験場、 酪農試験場 (R2-R4)	a	a	a	A	乾乳牛の嗜好性が高く、過 肥が抑制される木質粗飼料の 製法および給与方法を開発し た。樹種の条件を加えた系統 的な検討や有効性の機作を明 らかにすることにより木質粗飼 料の有用性をさらに高め、需要 拡大を図ること。	A	評価委員会の意見を踏まえ て成果の普及を進めること。
<b>AM技術を用いた高性能鋳ぐるみ部品製作法の開発</b>							
○工業試験場 (R2-R4)	b	b	b	B	接合による一体化製造技術 は開発されたが、当初目標に対 し限定的な成果となった。今 後、外部資金獲得等による試 験継続にあたっては、関連産業 分野への展開も視野に効果的 な普及方法を考慮して進めるこ と。	B	評価委員会の意見を踏まえ て、今後の研究を進めること。

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		研究の進捗	目標達成見込	活用の可能性	評価	評価	意見
<b>AIによる自律化を目指したハウス栽培管理作業向けフィールドロボットの開発</b>							
○工業試験場 (R2-R4)	b	b	c	B	遠隔操作での要素技術は開発されたが、将来的な目標である自律作業が可能なフィールドロボットの実現に向けては取り組むべき課題がまだ多い。今後試験を継続するにあたり、社会実装に至るまでの展開方向を明確にして進めること。	B	評価委員会の意見を踏まえて、今後の研究を進めること。
<b>中小型漁船で漁獲された道産マイワシの消費拡大のための高鮮度保持技術の開発</b>							
○釧路水産試験場、 エネルギー・環境 ・地質研究所 (R2-R4)	b	a	b	B	漁獲から消費地市場に至る各場面で適切な冷却保存が行われるよう成果の普及に努めること。流通構造をふまえ、本技術が経済性（ブランド化、価格形成、付加価値）に与える影響について継続して検討し、高品質な道産マイワシの消費拡大を進めること。	B	評価委員会の意見を踏まえて成果の普及を進めること。
<b>豪雨増加により頻発する緩斜面災害を軽減するための研究 -寒冷地特有の周氷河堆積物等の崩壊メカニズムの解明と判定手法の開発-</b>							
○エネルギー・環境・地質 研究所 (R1-R4)	b	b	b	B	堆積物判定方法の提示など研究成果の実用性をより高め、関係機関と連携し、道路土工指針への反映に努めること。	B	評価委員会の意見を踏まえて成果の普及を進めること。